

主題研究

基礎的・基本的な内容の定着を図る 学習指導に関する研究

小・中学校国語科、算数／数学科における習熟度別指導を ととして （第1報）

「基礎・基本」研究班

小笠原 恵美子 安藤 雅博
尾澤 厚子 小原 昭徳
石橋 和彦 中館 豊

研究の概要

この研究は習熟度別指導をととして、児童生徒一人一人に基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導について明らかにし、小・中学校国語科、算数／数学科の教科指導の改善に役立てようとするものである。本年度は、2年次研究の第1年次として、次の成果を得た。

児童生徒一人一人の習得状況を把握するとともに、指導形態、指導編成コース、学習スタイルに配慮して、児童生徒のもつ可能性を發揮させる視点に立った、基本構想、推進計画を立てた。

学習内容や学習方法を柔軟にとらえて、単元で身に付けたい力にかかわった学習事項の習熟の程度に応じる視点に立った基本的指導過程を作成した。

キーワード：習熟度別指導 推進計画 基本的指導過程 指導形態 指導編成コース
授業スタイル 習熟度別学習集団

研究の目的

学習指導要領は、基礎・基本を確実に身に付け、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことを目指しています。教科の指導においては、個に応じた指導の充実を図り、児童生徒一人一人に、基礎的・基本的な内容の定着を図ることが重要です。

これまでも学習指導の改善は行われてきましたが、授業時数の削減や教育内容の厳選により、児童生徒一人一人に、基礎的・基本的な内容の定着を図るための授業改善が一層求められています。また、「確かな学力」の向上のために、個に応じたきめ細かな指導を工夫することも大切です。

そこで、児童生徒一人一人の基礎的・基本的な内容の習得状況を的確に把握し、それに応じた習熟度別指導を工夫することにより、個に応じた指導を充実させ、児童生徒一人一人に、基礎的・基本的な内容の定着を図ることが必要です。

したがって、この研究は、習熟度別指導をとおして児童生徒一人一人に基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導について明らかにし、小・中学校国語科、算数／数学科の教科指導の改善に役立てようとするものです。

研究の方向性

小・中学校国語科、算数／数学科の学習指導において、基礎的・基本的な内容の定着を図るために、児童生徒一人一人の基礎的・基本的な内容の習得状況を把握し、児童生徒一人一人に配慮した習熟度別指導の基本的指導過程、指導方法を開発・改善し提案することとします。

研究の計画

この研究は、平成14年度から平成15年度にわたる2年次研究です。

第1年次（平成14年度）

基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導についての基本的な考え方の検討、基本構想の立案、習熟度別指導の推進計画の作成、小・中学校国語科、算数／数学科の習熟度別指導についての基本的指導過程の作成

第2年次（平成15年度）

基本的指導過程に基づいた小・中学校国語科、算数／数学科での授業計画の立案、授業実践、実践結果の分析・考察、研究のまとめ

本年度の研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導についての基本構想の立案
- (2) 習熟度別指導の推進計画の作成
- (3) 小・中学校国語科、算数／数学科の習熟度別指導についての基本的指導過程の作成

2 研究の方法

文献法（資料の収集、整理）

研究結果の分析と考察

1 基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導についての基本構想

(1) 基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導に関する基本的な考え方

児童生徒が主体的、創造的に生きていくため、一人一人の児童生徒に「確かな学力」を身に付けることが教科指導の目標です。そのためには、習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導を推進し、基礎的・基本的な内容の定着を図ることが必要と考えます。

基礎的・基本的な内容の定着を図るためには、児童生徒一人一人の習熟の程度に応じて、繰り返し指導などによって「つまずき」を克服したり、課題にじっくり取り組ませたりなどのきめ細かな指導をする必要があります。きめ細かな指導は「確かな学力」の向上を図るためには必要不可欠なものと考えられます。本研究においては、学習内容の習得状況に応じたきめ細かな指導である習熟度別指導の工夫改善をとおして主題の解明に迫ることとしました。

習熟度の異なる児童生徒のいる学習集団の中で、どのような指導過程を組み、どのような学習集団の編成を行えばよいのか、習熟度別指導だからこそ効果のある指導方法とはどのようなものかが課題です。この課題解決のために、児童生徒の習熟度に応じた基本的指導過程、指導方法、学習内容の系統化、到達目標の設定や評価についての研究を行うこととし、本年度は習熟度別指導の基本的指導過程、指導方法の在り方を中心に研究を進めました。

ア 基礎的・基本的な内容について

基礎的・基本的な内容とは、学習指導要領に示された教科の目標や内容であり、基礎・基本（児童生徒のいろいろな活動のもととなるもの）の内容ととらえます。

本研究においては、これらの基礎的・基本的な内容の中核をなす基礎学力を知的学力、技能的学力の二つとしてとらえ、習熟度別指導を行うことによって基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導法の改善を行うものです。

イ 習得状況について

習得状況とは、児童生徒一人一人の学習方法や習得した知識としての学び具合としてとらえます。このことから、習得状況とは単に学習した知識だけではなく、児童生徒一人一人の習熟の程度と考えます。

ウ 学習スタイルについて

習熟度別指導を行う場合に、児童生徒の学習スタイルを把握してその特性に配慮した指導方法、指導過程を組むことが効果的です。以下に学習スタイルを分類したものを示します。

【思考特性】

- ・ 熟慮型
- ・ 衝動型

物事に対してじっくり考えてから実行する。
物事に対してすぐに実行する。

【行動特性】

- ・ 独立達成傾向型
- ・ 従属達成傾向型

自分から物事に進んで取りかかる。
教師や友達に指示してもらうことによって物事に取りかかる。

【視聴覚特性】

- ・ 言語型
- ・ 文字型
- ・ イメージ型
- ・ 実行型

教師や友達との話やテープを聞いて学習することに向いている。
教科書や本を読んで学習するのに向いている。
テレビなどを見て学習するのに向いている。
実験や観察、調査などの活動に向いている。

【学習形態特性】

- ・ 一斉学習型
- ・ グループ学習型
- ・ 一人学習型

一斉学習で教師の説明や友達の発表を聞いて学習するのに向いている。
グループ単位で話し合ったり活動したりするのに向いている。
一人で学習するのに向いている。

(2) 習熟度別指導について

ア 習熟の意味

習熟とは、その時点で「あることが分かる」、あるいは「あることができる」ということです。習熟の程度は、学習内容の小項目を対象としており、教科全体の能力を示すものではなく、具体的な学習場面の学習内容にかかわる習得状況に限定されます。

イ 習熟度別指導の意義

児童生徒一人一人の習得状況を把握し、学習スタイルの違いなど児童生徒一人一人に配慮した学級内、学級数を超える少人数の学習集団を弾力的に編成して、その学習集団に適した指導法を工夫していく習熟度別指導は以下の点において意義があると考えます。

【児童生徒の立場から】

- ・分からないときに自分にあった方法で指導を受けることができる。
- ・分かったこと、できたことが増え、学習に意欲的に取り組むようになる。
- ・多様な学び方とおして、学習の仕方が身に付くようになる。

【教師の立場から】

- ・基礎的・基本的な内容の定着を図る指導ができる。
- ・一人一人の児童生徒への指導と評価の機会が増え、個々の資質や能力に応じた指導を行うことができる。

基礎的・基本的な内容の定着を図るためには、きめ細かな指導を充実することが不可欠です。児童生徒一人一人の習得状況を把握し、学習スタイルを理解し、それに応じた習熟度別指導を行うことは、きめ細かな指導として有効です。

個別指導やグループ別指導といった指導法の工夫、理解の状況に応じた繰り返しの指導のほか、児童生徒の理解の状況等に応じた課題に取り組む学習、指導の過程における評価の工夫など多方面にわたる対応が求められます。

これらのことを踏まえて、本研究において、児童生徒の知的学力や技能的学力の状況だけではなく、児童生徒の学習スタイルを含めて実態を把握し、習熟度に応じた指導を行うことは「確かな学力」の定着を図るうえで意義あることと考えます。

ウ 習熟度別指導の推進計画と基本的指導過程

(ア) 習熟度別指導の推進計画

学校において、習熟度別指導を推進するときの指導者として留意することや組織として配慮すること、計画・実施・評価のなかで位置付けておく内容について検討し、学校の実態に応じた推進計画を作成する必要があります。本年度は、推進計画の概要について提示します。

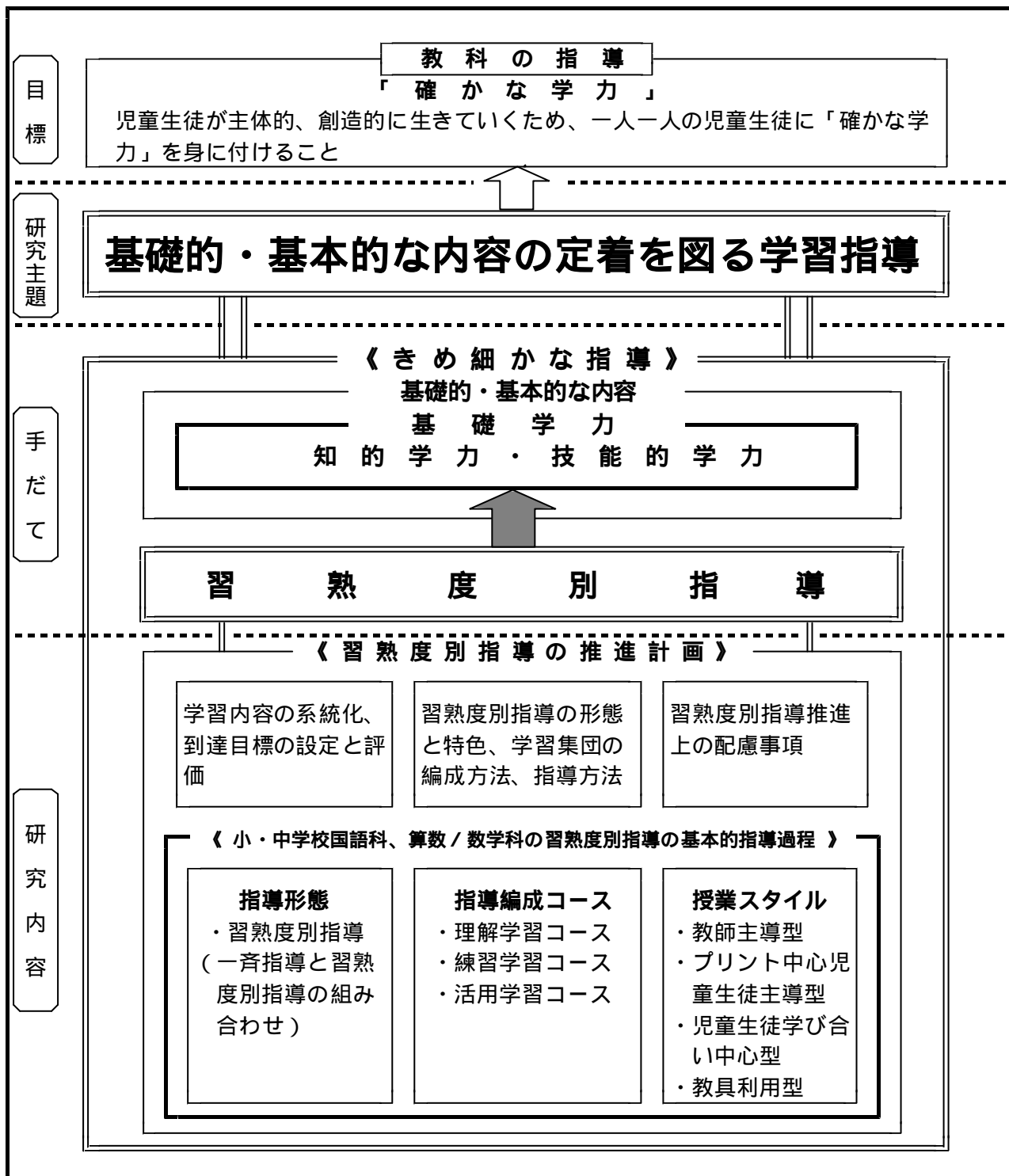
(イ) 習熟度別指導の基本的指導過程

習熟度別指導を一つの単元を単位として行う場合の指導過程を基本的指導過程として設定します。指導形態、習熟度別指導編成コース、授業スタイルについて構想し、2年次においては授業実践をとおして、より効果的な方法について検討し、提案することとします。

エ 学習内容の系統化、到達目標の設定と評価（2年次重点）

国語科、算数 / 数学科のどの領域・分野において習熟度別指導を行うことがより効果的であるのか、目標の設定と評価方法については2年次に授業実践をとおして検討し、提案することとします。

以上のことを基本構想図として【図1】に示します。



【図1】 基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導についての基本構想図

2 習熟度別指導の推進計画

(1) 習熟度別指導の方向性

習熟度別指導とは、基礎的・基本的な内容の定着を図るための個に応じた教育を推進するにあたり、児童生徒一人一人の習得状況を把握し、児童生徒一人一人に配慮した学級内、学級数を超える少人数の学習集団を弾力的に編成して、組織的に指導計画・指導案の作成、評価活動を行いながら指導する

きめ細かな指導方法の一つです。

習熟度別指導は、学習到達度の低い児童生徒をどのように指導するかという問題対策の段階にとどまるものではありません。一人一人の児童生徒のもつ可能性を最大限に発揮させるという発想に立つものです。児童生徒一人一人の習熟の程度に応じられるきめ細かな指導として機能しなければなりません。

(2) 習熟度別指導推進上の配慮事項

習熟度別指導を進めるにあたっては、指導者として配慮することと組織として留意することがあります。

ア 指導者としての配慮事項

指導者は授業をとおして一人一人の児童生徒のもつ可能性を最大限に発揮させるという発想に立ち、学習指導・生徒指導・自立への支援をしていることを忘れずに習熟度別指導にあたります。

(ア) 習熟度別集団の編成にかかわって

集団内の行動の基盤となる共通の約束事（話の聞き方や話し方、互いの人権の尊重等）を確立しておきます。

進んで学びたいという心の基盤となる集団内での教師、児童生徒相互の内面交流を促進します。

(イ) 習熟度別指導の授業展開にかかわって

授業のなかに自分の考えや感じたことを話し合う場を設定します。

結果だけでなく、児童生徒の取り組みの過程を認め合う場を設定します。

児童生徒が今できていることを積極的にほめ、認め、定着を確認させます。

児童生徒が努力の過程など、具体的にほめられているところを他の児童生徒に見せます
指導を一方的にするのではなく、児童生徒のつまずきに耳を傾け、よく聞いて今後の対応の仕方を学ばせます。

イ 組織としての留意事項

(ア) 計画段階

指導の方針

習熟度別指導の意義については、学校の教育目標の具現のため、どのような意味付けをもたせるのかを明確にし、学校経営方針に示します。

校内体制作り

習熟度別指導担当教員だけでなく全体の校内体制を確立して推進します。

推進計画の作成

習熟度別指導に対する研修と共通理解、担当する教員を始めとする指導体制の確立、指導する教室の確保や教室環境の整備、時間割における習熟度別指導の時間の割り振りと確保、多様な教材の準備、保護者や地域の人々に対する説明など、きめ細やかな準備をする必要があります。

評価の方針

毎時間の評価規準をもとに評価場面や評価方法を具体化するとともに、「十分満足でき

る、おおむね満足できる、努力を要する」状況を児童生徒のどのような姿で判断するのかを、習熟度別指導を行う教師間で共通理解を図っておきます。

(イ) 実施段階

児童生徒の実態把握

編成にあたって、児童生徒の実態を把握する必要があります。学習指導要領をもとに単元目標を設定し、単元ごとの評価規準を具体化しておかなければなりません。また、単元導入時には、プレテスト、意識調査を行うなどして、できるだけ正確な実態把握をする必要があります。

編成の時期

習熟度別指導は単元のねらいや学習内容によって、編成の仕方が異なるため、一度編成した学習集団を固定的なものとしてとらえないことが大切です。指導前、指導中、指導後の評価を繰り返し行い、学習集団を編成します。

編成の方法

単元の導入前に簡単なテストや意識調査等を行い、その結果を踏まえて児童生徒が自分でどの学習集団を選択するか決定します。その際、あらかじめどのような学習集団があるのか、どのような学習が行われるのか、オリエンテーションをしておきます。

学習相談

事前のオリエンテーションはもとより、学習途中や事後において内容理解や学び方について指導・支援をします。

(ウ) 評価段階

事前・事後に意識調査やテスト等を実施して児童生徒の実態把握をします。

指導の節目で内容の習得状況にかかわる実態把握をします。

指導内容はもとより、児童生徒の学習過程について自己評価をさせます。

児童生徒、保護者のアンケート調査等を行い、習熟度別指導の改善の資料とします。

(3) 習熟度別指導の学習形態とその特色

ア 学級における習熟度別指導

学級内で習熟度別にグループを編成して、それぞれに適した学習を行わせるものであり、等質なので教師が指導しやすく、知識習得の効率を上げることができます。しかし、同一学級内での小集団編成なので、劣等感等の心理面への配慮が必要です。特に、習熟度の低い生徒に対しては「分かる」ことによって、充実感・成就感が得られるように教材等を工夫する必要があります。

イ 等質化した小集団における習熟度別指導

学年・学級を一定の観点や基準から小集団に再編成して、それぞれに適した学習を行わせるものです。元の学級に比べて学習集団内の児童生徒の習得状況の違いが少ないので、一斉指導であっても、児童生徒にとっては自分の学びにあった学習ができるというよさがあります。

教師にとっては、その集団の能力や理解の状況に応じた教材・教具を準備し学習を展開できるという利点があります。

【学年・学級を等質化した小集団に再編する場合の配慮事項】

- ・学習集団の編成にあたっては、編成の目的や学習集団化の区分けの基準等を明確にし、共通理解を図っておくこと。
- ・学習集団の編成にあたっては、児童生徒に学習の目的や方法を示し、児童生徒自身が自分にあった学習集団を選択できるようにすること。
- ・各学習集団の指導目標や内容が異なる場合は、指導者はそれらについての系統性や発展性を理解し、集団編成を柔軟に行うこと。

(4) 学習内容の系統化、到達目標の設定と評価についての構想案（2年次重点）

基礎的・基本的な内容を児童生徒一人一人が習得できるように習熟度別指導の学習内容を精選し、系統化することが必要です。

到達目標については、当該領域における当該学年の内容を学習指導要領の目標・内容から抽出し、単元の観点別到達目標とします。次に習熟度別学習に応じられるように生徒の具体的行動目標の形で学習の各段階ごとに具体的到達目標を設定します。その具体的到達目標に対して、形成的評価の内容方法を設定し、目標に到達しているかを確認しながら学習の習熟を図ります。

習熟度別指導の事前には観点別到達目標にかかわる内容の習熟の程度を把握するための診断テストや調査等の診断的評価を行います。事中には、形成的評価を行い、習熟の程度を確認し、事後には、指導内容の習熟度を把握するための総括的評価を行います。なお、習熟度別指導においては学習中、学習後に自己評価や相互評価、指導者との学習相談を行うことによって児童生徒一人一人をきめ細かく指導できると考えられます。

3 小・中学校国語科、算数/数学科の習熟度別指導についての基本的指導過程

授業は、児童生徒にとって学校生活の中心であり、充実した毎時の授業は充実した学校生活をもたらします。授業は、指導計画と評価の橋渡しをするものであり、評価は授業における学習内容の理解や習得にかかわるだけではないに、教育目標の達成にまでかかわっています。

このようにして考えますと、児童生徒が授業を十分に理解できないままていることは、教育目標への到達する手がかりを失っていることとなります。きめ細かな指導である習熟度別指導をとおして、基礎的・基本的な内容の定着を図ることは、学校教育においていかに大切であるか分かります。そこで、習熟度別指導の基本的指導過程を固定的にとらえず、児童生徒の学習内容の習得状況や学習スタイルに配慮して、より効果的な組み合わせとなるように基本的指導過程のパターンを考えることとします。

(1) 基本的指導過程における習熟度別指導の位置付け

習熟度別指導を単元のどこで実施するかは大切な検討事項ではありますが、以下の三つの段階での位置付けを基本として基本的指導過程を組み立てることとしました。

- [A 単元の導入段階で習熟度別学習集団に編成]
 - ・単元の始まる前に診断テスト、意識調査を実施し、学年・学級を習熟度別集団に再編成し単元の導入において習熟を図る指導を行う。
- [B 単元の充実段階で習熟度別学習集団に編成]
 - ・学級ごとに学習を展開し、習熟の状況に応じて学年・学級を習熟度別集団に再編成し、指導を行う。
- [C 単元の発展段階で習熟度別学習集団に編成]
 - ・理解の状況等に応じて繰り返し指導をしたり、発展的な学習をしたりすることができるように単元の終末において習熟度別集団に再編成し、指導を行う。

(2) 基本的指導過程における指導パターンについて

内容のまとめりとして、導入、充実、発展の三つの段階を設定し、それぞれの段階における指導形態、習熟度別指導編成コース、授業スタイルのより効果的な組み合わせを考えながら学習を深めるように基本的指導過程における指導パターンを検討していくこととします。

ア 指導形態

本研究においては、一斉指導と習熟度別指導の二つの指導形態を考えます。一斉指導は、同時に、同一内容を効率的にかつ能率的に教えることができたり、他者との相互作用ができたり、認知面だけでなく情意面での相互作用が期待できたりするよさがあります。この一斉指導のよさと習熟度別指導のよさを十分に生かすことができるように、それぞれの指導過程においてより効果的と考えられる形態を位置付けていきます。

イ 習熟度別指導編成コース

習熟度別指導を行う場合、学校体制によって様々な編成の仕方が考えられます。本研究においては、児童生徒一人一人に配慮した習熟度別学習を行うために、グループ編成数を固定しませんが、例えば3コースと考える場合には、次のような内容によって編成します。

- (ア) 理解学習コース
指導単元の学習内容や既習事項について習得が十分でない児童生徒に対して、補充的な学習を行うコース
- (イ) 練習学習コース
指導単元の学習内容や既習事項について習得がおおむね図られている児童生徒に対して理解を深めるコース
- (ウ) 活用学習コース
指導単元の学習内容や既習事項について習得が十分な児童生徒に対して、更に伸ばしていくことを目標とするコース

ウ 授業スタイル

学習スタイルの分類を踏まえて、教師主導型、プリント中心児童生徒主導型、児童生徒学び合い中心型、教具利用型の四つを設けて、より効果的な指導を行うこととします。それぞれのスタイルの内容は、次のとおりとします。

(ア) 教師主導型

主に理解学習コースにおいて行うスタイルとします。学習内容がおおむね身に付くように、教師が

その児童生徒にあった方法で定着を図らせるために指導します。

(イ) プリント中心児童生徒主導型

活用学習コースと練習学習コースにおいて行うスタイルとします。自由進度学習や完全習得学習などの形態をとり、児童生徒自らが主体的に取り組めるようにします。

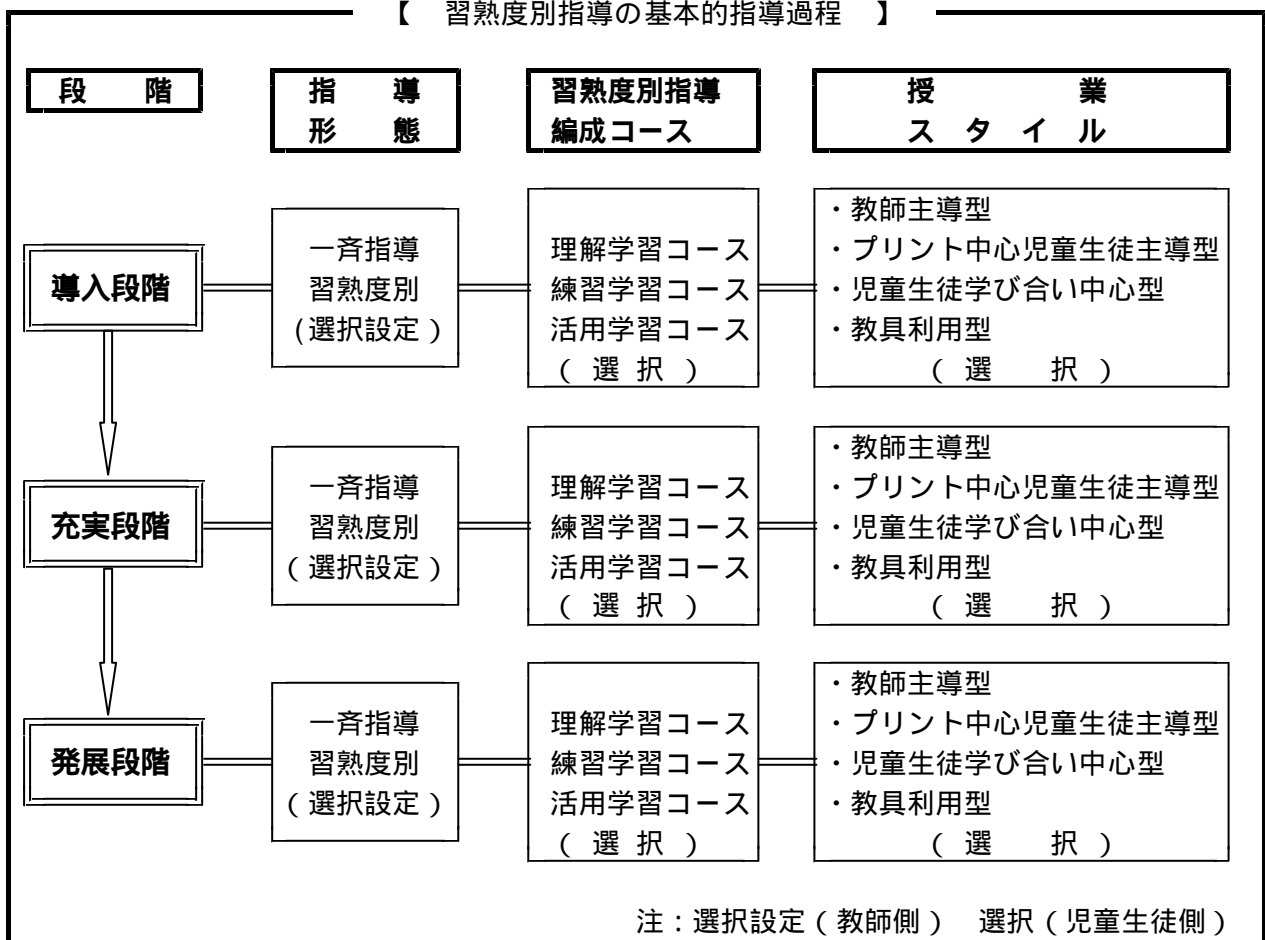
(ウ) 児童生徒学び合い中心型

主に活用学習コースにおいて行うスタイルとする。学習内容が十分に定着している児童生徒であるので、互いに考えを交流しながら問題を解決する場面を設定して理解を深めさせたり、発展的な学習に取り組ませたりします。

(I) 教具利用型

それぞれのコースにおいて必要と思われるときに行うスタイルとします。教具（パソコン等）を利用して概念や原理を身に付けさせたり、発展的な学習の場面で使ったりします。

【 習熟度別指導の基本的指導過程 】



研究のまとめ

1 研究の成果

この研究は習熟度別指導をとおして、児童生徒一人一人に基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導について明らかにし、小・中学校国語科、算数/数学科の教科指導の改善に役立てようとするも

のです。

そのために、本年度は基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導についての基本構想の立案、習熟度別指導の推進計画の作成、小・中学校国語科、算数 / 数学科の習熟度別指導についての基本的指導過程の作成を行いました。その結果、成果として得られたことは次のことです。

(1) 基礎的・基本的な内容の定着を図る学習指導についての基本構想の立案

基礎的・基本的な内容の定着を図るためには、児童生徒一人一人の習得状況を把握し、学習スタイル等、児童生徒一人一人に配慮し、習熟の程度の段階にかかわらず児童生徒のもつ可能性を發揮させる視点に立った習熟度別指導を行うことが有効であるという考えに基づいて基本構想を立てました。

(2) 習熟度別指導の推進計画の作成

児童生徒、保護者の理解が得られるように指導者や学校組織として児童生徒一人一人に配慮し、オリエンテーションはもとより学習相談の機能を充実させ習熟度別指導がより効果的に働くような見通しをもった視点に立った習熟度別指導を行うことが有効であるという考えに基づいて、推進計画を作成しました。

(3) 小・中学校国語科、算数 / 数学科の習熟度別指導についての基本的指導過程の作成

習熟度別指導を行う場合は、評価テスト、意識調査等を繰り返し行い、学習内容や学習方法を柔軟にとらえて、単元で身に付けたい力にかかわった学習事項の習熟の程度に応じる視点に立った習熟度別指導を行うことが有効であるという考えに基づいて、基本的指導過程を作成しました。

2 今後の課題

(1) 習熟度別指導の推進計画の検討

習熟度別指導の推進計画の項目、内容について更に検討し、計画・実施・評価の系統性をより明確にし、学校において活用されるようにすることです。

(2) 小・中学校国語科、算数 / 数学科の習熟度別指導についての基本的指導過程の検討

系統化された学習内容や具体化された到達目標の設定と習熟度別指導に適した領域・分野を明示した基本的指導過程を検討し、授業実践をとおしてより効果的な指導パターンを提示することです。

【主な参考文献】

杉山吉茂・石坂和夫	個に応じる学習	東京書籍	1991年
祖父江孝男・梶田正巳	日本の教育力	金子書房	1996年
人間教育研究協議会	学力向上をめざす教育	金子書房	2001年
川島隆太	読み・書き・計算が子どもの脳を育てる	子どもの未来社	2002年
小島宏	算数科習熟度別学習の実践方式	明治図書	2002年
児島邦宏	小学校少人数指導実施の手引き	明治図書	2002年